

〈タンチョウのことを知ろう〉

タンチョウの声変わり

釧路市動物園 ツル担当主査
吉野 智生



改めて言うことでもないかもしれません、阿寒国際ツルセンターではタンチョウを飼育しています。その中にルビーというメスがおりまして、この個体は昨年度、親とはぐれてしまって合流させられなかつたため、人工育雛（いくすう）を行つて現在もツルセンターで飼育しています（122号参照）。そのルビーの声が3月の中頃から、少しづつ変わつてきましたというお話です。

前回も書きましたが、タンチョウは、ヒナのうちはピィピィという細く甲高い声で鳴き、これは飛べるようになって幼鳥と呼ばれるようになってからも変わりません。給餌場でも「ピィッ」とか「ピルルルレッ」とか、そういう声を聴いたことは皆さまおありかと思います。

さて、タンチョウの幼鳥は、個体差がかなりあります、早春から少しづつ大人っぽくなります。具体的には、頬や頸がだんだん黒っぽくなり、頭の茶色い羽が少しづつ薄くなつて、その下に赤いボツボツがみられるようになります。最終的にこの部分は羽が抜けて禿げます。少しづつ、体が大人へと成長していくわけです。

4月の中頃、隣ケージのペアの鳴き交わしに反応して、ルビーが鳴きました。この時、声はまだ濁つていて細かったのですが、「ビィッビィッ」という、メスの鳴き方のリズムでした。その後、5月に入ると、もう成鳥と同じような太さの声になり、まだ少し声は小さいですが、しっかりとした声が出るようになりました。ルビーは昨年6月上旬に保護され、その時で体重約1kgでしたから、おそらく1か月齢弱。そして羽が生えそろつて飛べるようになったのが

8月後半ですので、そこから100日前と考えると、だいたい5月の連休明けくらいに生まれていることになります。なので、だいたい11か月齢くらいで声変わりが始まり、1年経つ頃にはほぼ成鳥と同じ声が出るようになる、と考えてよいようです。

ルビーの性成熟、ペアリングはこれからですから、成長に目を細めつつ、今後も無事に育ってくれることを願っています。



成鳥へむけて、大きくなっているルビー